【令和2年度】

「新型コロナウイルス感染症による府民の精神的健康度の影響」に関するアンケート

リサーチプラン

1. 調査の背景と目的

新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」という。）の影響が長期化している中、新型コロナによる府民のストレスへの影響を調査することによって、今後の新型コロナに関するこころのケアについての取組みの充実を図ることを目的に、本調査を実施する。

1. 調査仮説

仮説１　60代以上は、それ以外の年代に比べストレスを感じている割合が高い。

仮説２　緊急事態宣言前（令和2年4月6日以前）よりも、アルコール摂取量、ギャンブルの時間、ゲームの時間が増えた人は、増えていない人に比べストレスを感じている割合が高い。

仮説３　ストレス解消方法が１個以下の人は、２個以上ある人に比べストレスを感じている割合が高い。

1. 調査対象

大阪府在住の18～90歳までの男女、各世代（18～29歳、30代、40代、50代、60代以上）２00サンプル（男女均等割）、計1,000サンプル

1. 質問項目

予備質問　５問

1. 性別（SA）
2. 年齢（NA）
3. 都道府県（SA）
4. 家族構成（MA）
5. 職業（SA）
6. 本質問　９問
（Q1～Q14は他の調査で使用）
7. 現在のストレスの状態（表組SA）
8. 緊急事態宣言前（令和2年4月6日以前）と比べた、アルコール摂取量、ギャンブルの時間、ゲームの時間の増減（表組SA）
9. 緊急事態宣言前（令和2年4月6日以前）と比べた、今の収入の増減（SA）
10. 新型コロナに関する1日あたりの情報検索時間（SA）
11. ストレス解消方法の有無（SA）
12. 〔解消方法がある人〕ストレス解消方法について当てはまるものを選択（MA）
13. 大阪府の新型コロナウイルス感染症に関するこころのケアの相談先で知っているもの（MA）
14. 〔相談先を知っている人〕利用の有無（SA）
15. 〔相談先を知っている人〕知った方法・媒体（MA）
16. 検証方法

仮説１：Q15×SC2

仮説２：Q15×Q16

仮説３：Q15×Q20